社会科学習指導案

日　時　令和８年２月９日（月）
　　第５校時　13:35～14:20
学校名
対　象　第５学年　　組　　名
会　場　３階　　５年　　組教室
授業者

１　小単元名

「自然災害と国土の関わり、国や都道府県の働き」(「新編　新しい社会５下」東京書籍)

２　小単元の目標

国土の自然災害の様子について、災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現することを通して、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

３　小単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。 ②　調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。	①　災害の種類や発生の位置や時期、防災対策に着目して、問いを見いだし、国土の自然災害の状況について考え、表現している。 ②　我が国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて、自然災害が発生する理由や、国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、適切に表現している。	①　国土の自然災害の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

４　指導観

⑴　単元観

本小単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年７月告示）第２章　第２節　社会　第５学年

２　内容
⑸　我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
(ｱ) 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。
(ｴ) 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。
イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(ｱ) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。
３　内容の取扱い
⑸　内容の⑸については、次のとおり取り扱うものとする。
ア　アの(ｱ)については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などを取り上げること。

に基づいて設定した。

本小単元は、内容の⑸「我が国の国土の自然環境と国民生活」のアの(ｱ)及び(ｴ)とイの(ｱ)に関する内容で構成されている。ここでは、「自然災害と国土の自然条件との関連」や「国や県などの対策や事業」を取り上げ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、国土を保全し国民の生活を守るために国や県などが様々な事業や対策を進めていることを理解できるようにすることをねらいとしている。また、内容の取扱い⑸のアに「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などを取り上げること。」と示されており、第４学年の内容の⑶「自然災害から人々を守る活動」とのねらいの違いに留意し、自然災害と国土の自然条件との関連を通して国土の地理的環境を理解することできるようにする。さらに、理科の内容のＢ「生命・地球」の⑶「流れる水の働きと土地の変化」及び⑷「天気の変化」の内容の取扱いにおいて、自然災害について触れることが示されているため、それぞれの既習事項を生かした学習展開になるような発問や資料の精選を行う。

⑵　児童観

本学級の児童は、第４学年では、「自然災害から人々を守る活動」において、地震災害を、第５学年では、「我が国の国土の様子と国民生活」において、我が国の地形と気候の特色をそれぞれ学習した。また、第５学年の理科では、「天気の変化」「流れる水の働きと土地の変化」をそれぞれ学習した。

「自然災害に関するアンケート」を行った結果、得られた回答は以下の通りである。

「自然災害に関するアンケート」調査人数 30 名、質問紙法、自由回答・複数解答、主な項目のみ記述

項目１　日本の地形の特色（自由記述）

山地が多い（28）　海に囲まれている（20）　流れが急な川が多い（10）　その他（２）

項目２　日本の気候の特色（自由記述）

四季がある（29）　梅雨や台風がある（27）　地域によって気候が異なる（20）　その他（２）

項目３　理科「台風と天気の変化」で学んだこと（自由記述）

南から北へ移動する（30）　左下が強い（８）　南の温かい海で発生する（５）　避難行動（４）

項目４　理科「流れる水のはたらき」で学んだこと（自由記述）

内側と外側で流れが異なる（24）　上流と下流で様子が異なる（20）運搬や堆積などの用語（７）

項目５　外国に比べて日本の方が多いと思う自然災害（複数解答）

地震災害（30）　津波災害（26）　火山災害（12）　風水害（20）　雪害（11）

項目６　項目５のように思った理由（自由記述）

【地震災害】体験（20）　プレート（５）　ニュース（５）

【津波災害】地震が多い（18）海に囲まれている（８）

【火山災害】山が多い（10）　ニュース（２）

【風水害】気候（16）　ニュース（３）　川が短く流れが急（１）

【雪害】日本海側と太平洋側にて高頻度で降雪（７）　季節風（４）

項目７　自然災害に対して、国や都道府県が行っている対策（単一解答）

【地震災害】知っている（28）　【津波災害】知っている（10）　【火山災害】知っている（５）

【風水害】知っている(24)　【雪害】知っている（18）

項目８　項目７に関連して、具体的に知っている対策（自由記述）

【地震災害】緊急地震速報（26）　ハザードマップ（15）　避難所の開設（3）　その他（３）

【津波災害】メディアの津波情報（８）　堤防（２）　高台の避難所（２）

【火山災害】ハザードマップ（５）

【風水害】ダム（24）　放水路（20）　ハザードマップ（10）　その他（２）

【雪害】除雪車（10）　ロードヒーティング（７）　家の設備（５）

まず、上記の結果から、基礎的な既習事項に関しては概ね定着していることが分かる（項目１～４）。これは、地形や気候に関する教材を教室に掲示したり、体験的な活動や動画資料を活用したりしたためであると考える。次に、地震災害は外国に比べ、日本の方が自然災害の発生頻度が高いと考えている児童は全員である（項目５）。これは、青森県東方沖地震の記憶が新しいことやこれまでに起こった地震災害を見聞きしているためと考える（項目６）。その一方で、地震災害を除く災害については、日本の地形や気候との関わりについて言及している児童が少ないことも分かる(項目６)。また、国や都道府県が行っている自然災害に対する対策については、地震災害が最も多く、風水害と雪害がそれに続く（項目７）。これは、社会科や理科で学んできたことを想起しているためであると考える。さらに、具体的に知っている対策に関して、地震災害や火山災害、風水害ではハザードマップ、風水害ではダムや放水路が多い（項目８）。これは、既習事項であることと、昨年度の社会科見学で首都圏外郭放水路を見学したことによるものであると考える。

アンケートの分析から、体験的な活動が有効であることが分かる。そのため、日本の地形や気候といった自然条件と自然災害との関連について、体験的な活動を通して理解できるようにする。また、自然災害に関する国や都道府県の対策に関しては、なぜ、その対策が必要なのかを日本の地形や気候と関連付けて考えることができるようにすることで、実感を伴って理解できるようにする。

⑶　教材観

「つかむ」段階では、日本で発生した主な自然災害の位置と種類を示した地図と年表を提示し、日本では様々な自然災害が発生し、これからも繰り返し起きるであろうことを捉えることができるようにする。また、第４学年の「自然災害から人々を守る活動」、第５学年の理科の「天気の変化」「流れる水の働きと土地の変化」に見られる自然災害に対する人々の対応や国土の様子に関する既習事項を想起するよう伝え、自然災害の様子を写真や動画で提示することで、自然災害に対して、どのように国や都道府県が対策をしているのかについて問いをもてるようにする。さらに、理科において既習である「流れる水の働き」を例示し、自然災害発生の理由と自然条件との関連についても問いをもてるようにする。以上により、自然災害と国土の自然条件との関連、国や都道府県の防災・減災に向けた対策や事業について調べる学習問題をつくることができるようにする。

「しらべる」段階の地震災害や津波災害、火山災害については、国土の地形との関連を踏まえて理解することできるように､立体地図や日本近郊の４つのプレートが示されている地図を活用する。その際、下敷き２枚を用いたプレートの動きを再現する体験活動を行うことにより、プレートの動きによる地震や津波などの発生のメカニズムと国土の地形との関わりについて、実感を伴って理解できるようにする。また、これら自然災害の防災・減災に向けた対策や事業を動画で示したり、その意義を考える活動を取り入れたりすることで、国や都道府県の対策や事業を理解できるようにする。風水害や雪害については、国土の気候との関連を踏まえて理解できるように、日本の気候区分と月別の降水量が示されている地図を活用する。また、国や都道府県の対策や事業を理解できるようにする際には、地震災害や津波災害、火山災害と同様の指導を行う。さらに､「しらべる」段階では、自作の学習計画表（後述）を活用し、児童が毎時間のまとめとキーワードを記入できるようにする。そうすることで「まとめる」段階で、学習問題に対する自分の考えをもてることができるようにする。

「まとめる」段階では、学習計画表にまとめたことを基に、自然災害ごとの自然条件と国や都道府県の対策や事業に関するキーワードを出し合う。学級全体で出し合ったキーワードを基に、全体をまとめるとどのようなことが言えるのかを考え、ペアやグループで説明し合うことで、対話的に学習問題を解決できるようする。

５　年間指導計画における位置付け

	小単元名	時数
１学期	世界の中の国土	６時間
	国土の地形の特色	５時間
	高い土地のくらし	５時間
	国土の気候の特色	５時間
	寒い土地のくらし	５時間
	日本の食料生産と発展	８時間
２学期	米づくりのさかんな地域	７時間
	水産業のさかんな地域	６時間
	日本の工業生産と発展	８時間
	自動車をつくる工業	６時間
	工業生産を支える貿易と運輸	６時間
	情報産業とそれを生かすわたしたちのくらし	７時間
３学期	情報を生かす産業	６時間
	自然災害と国土の関わり、国や都道府県の働き（本小単元）	８時間

	わたしたちの生活と森林	6時間
	環境をまもるわたしたち	6時間

6　小単元の指導計画と評価計画

過程	時	目標	○学習活動　・予想される児童の反応　※主な資料	評価規準（評価方法）
つかむ	1	日本で発生する自然災害の種類、発生の位置や時期を調べ、我が国の自然災害の状況を理解する。	問い：日本では、これまでにどのような自然災害が、いつ、どこで発生したのだろうか。 ○　日本で発生した自然災害の種類、発生の位置や時期を調べる。 ※　日本で発生した主な自然災害の位置と種類を示した年表とその様子の画像（動画、写真） ・　日本では、様々なところで自然災害が起きている。 ・　自然災害は繰り返し起きているから、これからも起こると思う。 ○　本時の問いに対する自分の考えをノートにまとめる。 ・　地震災害、津波災害、火山災害、風水害、雪害といった自然災害が、日本全国で繰り返し発生している。	アー①（発言やノートの記述分析）
	2	日本で発生する自然災害の原因に着目して学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。	めあて：学習問題と学習計画を立てよう。 ○　自然災害が発生する理由を予想し、話し合う。 ・　雪害は、季節風の影響で、冬の日本海側で雪が降りやすいことが原因だと思う。 ○　自然災害に対して、国や都道府県はどのような対策をしているのかを予想し、話し合う。 ※　日本で発生した主な自然災害の様子の写真 ・　北海道では雪を溶かす温水パイプがあったように、雪で道路が凍らないように、国や北海道が温水パイプを道路に設置していると思う。 ○　予想を整理して、学習問題をつくる。	イー①（発言やノートの記述分析） ウー①（発言やノートの記述分析）
			【学習問題（例）】 自然災害は、どのような自然条件のところで起き、 国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。	
			○　整理した予想から調べることを考え、学習計画を立てる。	
しらべる	3	地震災害の発生の位置と国や都道府県の防災対策について調べ、地震災害の状況を理解する。	問い：地震災害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。 ○　地震発生の仕組みを調べる。 ・　プレートが動くことによって地震は発生する。 ○　地震災害と国土の自然条件との関わりを考える。 ※　主な地震の震源の分布とプレートの位置 ・　日本列島は4枚のプレートの上にあり、プレートが動くことが他国に比べて多いから、全国で地震が起こる。 ○　国や都道府県の地震災害対策を調べる。 ・　気象庁が緊急地震速報を送ったり、都道府県が学校の耐震化を進めたりしている。 ○　本時の問いに対する自分の考えを学習計画表にまとめる。 ・　地震災害は、日本の地形が関係している。また、地震	アー①（発言や学習計画表の記述分析）

			災害の被害が大きくならないように耐震工事をするなどの対策をしている。	
	4	津波災害の発生の位置と国や都道府県の防災対策について調べ、地震災害の状況を理解する。	問い：津波災害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。 ○　津波発生の仕組みを調べる。 ・　海底が震源の場合、海水が持ち上げられ、津波が発生する。 ○　津波災害と国土の自然条件との関わりを考える。 ※　津波災害に遭った位置を示した日本地図 ・　日本列島は４枚のプレートの上にあり、地震が多い。また、海に囲まれているから、津波災害が起きやすい。 ○　国や都道府県の津波災害対策を調べる。 ・　国が財政支援を行い、防潮堤を陸前高田市に建設した。 ○　本時の問いに対する自分の考えを学習計画表にまとめる。 ・　津波災害は、日本の地形が関係している。また、津波災害の被害が大きくならないように防潮堤を建設するなどの対策をしている。	ア－① （発言や学習計画表の記述分析）
	5	火山災害の発生の位置と国や都道府県の防災対策について調べ、地震災害の状況を理解する。	問い：火山災害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。 ○　火山噴火の仕組みを調べる。 ・　マグマが地表付近に達し、周りの岩石が耐えきれなくなると噴火する。 ○　火山災害と国土の自然条件との関わりを考える。 ※　主な火山の位置と世界の造山帯の位置の地図 ・　日本は山地が約７割であり、４枚のプレートの上にあるため、活火山が多い。 ○　国や都道府県の火山災害対策を調べる。 ・　気象庁は 24 時間体制で火山を監視している。 ○　本時の問いに対する自分の考えを学習計画表にまとめる。 ・　火山災害は、日本の地形が関係している。また、火山災害の被害が大きくならないように火山を 24 時間監視するなどの対策をしている。	ア－① （発言や学習計画表の記述分析）
	6	風水害の発生の時期と位置、国や都道府県の防災対策について調べ、地震災害の状況を理解する。	問い：風水害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。 ○　風水害発生の時期や位置を調べる。 ・　夏から秋にかけて多く、台風や線状降水帯が発生し、それにより、洪水や土砂崩れが起きる。 ○　風水害と国土の自然条件との関わりを考える。 ※　月別の主な台風の進路と日本の地形図 ・　日本は台風の通り道になることが多く、山地が７割強あり、川の流れが急なため、風水害が発生しやすい。 ○　国や都道府県の風水害対策を調べる。 ・　国土交通省が首都圏外郭放水路を管理している。 ○　本時の問いに対する自分の考えを学習計画表にまとめる。 ・　風水害は、日本の気候が関係している。また、風水害	ア－① （発言や学習計画表の記述分析）

			の被害が大きくならないように首都圏外郭放水路を建設し、管理するなどの対策をしている。	
	7	雪害の発生の時期と位置、国や都道府県の防災対策について調べ、地震災害の状況を理解する。	問い：雪害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。 ○　雪害発生の時期や位置を調べる。 ・　日本海側に多く、ほとんどが 12 月から２月に発生している。 ○　雪害と国土の自然条件との関わりを考える。 ※　日本の気候区分（月別の降水量）を示した地図 ・　日本海側は、季節風の影響で、雪が多いため、雪害が起こりやすい。 ○　国や都道府県の雪害対策を調べる。 ・　道路が凍らないように、消雪パイプを埋めている。 ○　本時の問いに対する自分の考えを学習計画表にまとめる。 ・　雪害は、日本の気候が関係している。また、雪害による被害が出ないように消雪パイプを設置するなどの対策をしている。	アー① （発言や学習計画表の記述分析）
まとめる	8（本時）	学習問題に対する自分の考えを学習計画表にまとめ、まとめたことを基に説明し合い、自然災害と国土の自然条件との関連、自然災害から国土を保全し国民生活を守るための対策や事業について理解する。	めあて：学習問題に対する自分の考えをまとめよう。 ○　これまでの学習を振り返り、問いに対するまとめのキーワードを出し合う。 ○　学習問題に対する自分の考えと考えた理由を学習計画表に記述し、学級全体で説明し合う。 ・　自然災害は、地形や気候といった国土の自然条件と関連して発生している。また、国や都道府県は様々な防災対策を行うことで、災害の被害を減らそうとしている。なぜ、そう考えたのかというと、地震や津波は日本列島が４枚のプレートの上にあるという地形が関係していたり、雪害は、冬に日本海側で季節風が吹くという気候が関係したりしているから。また、地震災害に対しても雪害に対しても国や県が必ず対策をして、被害を減らそうとしているから。	アー② （発言や学習計画表の記述分析） イー② （学習計画表の記述分析）

7　指導にあたって

班テーマ「自ら問いを追究し、学びを深めようとする児童の育成」に基づき、本小単元では以下の工夫を行う。

⑴　具体物の提示や体験活動の設定と適切な発問

地震災害と津波災害発生の理由であるプレートの動きを、２枚の下敷きを活用することによって体験する活動を設定する。児童はプレートの動きを体験することで、地震災害と津波災害発生のメカニズムを実感的に理解できるようにする。

また、体験活動の後、「このような動きをするプレートは日本のどこにあるか。」という問いを設け、調べたり考えたりできるようにすることで、地震災害と津波災害が国土の自然条件（地形）と関連して発生していることを理解できるようにする。

⑵　児童の対話を促す学習環境づくり

本学級で意見を伝え合う際は、隣の席の児童や付近の３人で伝え合うよう指導しているため、対話をする相手が固定化されてしまっている。そのため、考えを伝え合う相手を授業者が指名したり、児童が伝えたい相手を選んだりするような環境をつくることで、多様な他者と対話し、自己の考えを深めることができるようにする。

また、対話を行う際の手掛かりとなるよう、本小単元で学習した事柄を整理し、教室の壁に掲示する。そうすることで、自身の考えの根拠を教室掲示から見いだしたり、考えを伝え合う際に児童が同じ資料を基に伝え合ったりできるようにする。

⑶　学習計画表の開発と活用

小単元における「学習問題」「毎時間の問い」「毎時間のまとめ」「学習問題に対する自分の考え」を書き込むことができる学習計画表（図１）を作成する。児童が学習計画表を活用することで毎時間、学習問題と向き合い、学びを深めることができるようにする。

ただし、学習計画表は児童の形成的な評価とそれを基にした授業改善を行うことを目的とし、評定には用いない。

学習問題
自然災害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。

問い	問い	問い	問い	問い
地震災害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。	津波災害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。	火山災害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。	風水害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。	雪害は、どのような自然条件のところで起き、国や都道府県はどのような対策をしているのだろうか。
まとめ 日本列島は、4枚のプレートの上にある。地震は、このプレートの動きで起こる。だから、日本は地震災害が多い。気象庁が緊急地震速報を流し、人々が地震に備えることができるようにしたり、耐震工事をすすめたりしている。 つまり、地震災害は、日本列島がプレートの上にあるという日本の地形のため、起きやすい。また、国や都道府県は、地震があっても、その被害をなるべく減らし、災害に遭わないような対策をしている。	**まとめ** 津波は海で起きる地震と同時に起きることが多い。だから、4枚のプレートの上にある日本列島は、地震と同時に津波が起こりやすい。また、日本は海に囲まれているという地形だから、地震が起きた時に、津波の被害を受けやすい。国や都道府県が津波ひなんタワーを建設したり、防潮堤を建設したりする対策をしている。 つまり、津波災害は、日本が海に囲まれた地形で地震が発生しやすいため、起こりやすい。また、国や都道府県は、その被害をなるべく減らし、人々の命を守るような対策をしている。	**まとめ** 日本は造山帯の一部で、山が多いことから、火山が多い。気象庁は、火山活動をしている火山を24時間監視したり、防災の心得を配って災害の恐ろしさを広めてそなえられるようにしている。 つまり、火山災害は、日本が造山帯の一部で山が多いという地形のため、起こりやすい。また、噴火がいつ起きてもいいような対策や噴火の前触れを知らせて被害を減らすための対策をしている。	**まとめ** 季節風の影響で太平洋側で雨が降りやすい。また、梅雨の時期から秋ごろにかけて、大雨や台風が起こり、その影響で洪水や土砂崩れが起こる。国土交通省は、首都圏外郭放水路を管理し、大雨が降ったときに、一時的に溜められるようにしている。また、ハザードマップを作って配り、危ない場所を知らせ、危険な時はすぐに避難できるようにしている。 つまり、風水害は、台風や梅雨の時期があったり、夏の季節風があったりする日本の気候のため、起こりやすい。国や都道府県は、風水害の被害を減らしたり防いだりするための対策をしている。	**まとめ** 雪は冬の季節風の影響で、日本海側や北海道、標高が高いところで多く降る。国や都道府県は、雪崩を防いで大きな事故にならないようにしたり、雪が凍らないように消雪パイプを設置している。 つまり、雪害は、季節風が日本海側に吹くという日本の気候のため起こりやすい。また、国や都道府県は雪害による被害を防ぎ、被害を減らすための対策をしている。
自然条件に関するキーワード 日本列島がプレートの上にある地形	**自然条件に関するキーワード** プレートの上にあり、海に囲まれた地形	**自然条件に関するキーワード** 山が多く、造山帯の一部という地形	**自然条件に関するキーワード** 台風の通り道だったり、季節風が吹いたりするという気候	**自然条件に関するキーワード** 冬に季節風が日本海側に吹くという気候
対策に関するキーワード 被害を減らすため	**対策に関するキーワード** 被害を減らすため	**対策に関するキーワード** 被害を減らすため	**対策に関するキーワード** 被害を防ぐため	**対策に関するキーワード** 被害を防いだり、減らしたりするため

学習問題に対する自分の考え
自然災害は、地形や気候といった国土の自然条件と関連して発生している。また、国や都道府県は様々な防災対策を行うことで、災害の被害を減らそうとしている。

左のように自分の考えをまとめた理由
地震や津波は日本列島が4枚のプレートの上にあるという地形が関係していたり、雪害は、冬に日本海側で季節風が吹くという気候が関係したりしているから。また、地震災害に対しても雪害に対しても国や県が必ず対策をして、被害を減らそうとしているから、このようなまとめにした。

図１　本単元で使用する学習計画表のモデル

８　本時（全８時間中の第８時）

⑴　本時の目標

学習問題に対する自分の考えを学習計画表にまとめ、まとめたことを基に説明し合い、　自然災害と国土の自然条件との関連、自然災害から国土を保全し国民生活を守るための対策や事業について理解する。

⑵　本時の展開

時間	○学習活動　・予想される児童の反応	・指導上の留意点　※資料	評価規準 （評価方法）
導入 ５分	○　学習計画表を基に、本時のめあてを確認する。 ・　今回は、学習問題に対する自分の考えをまとめる。		
	めあて　学習問題に対する自分の考えをまとめよう。		
展開 30 分	○　これまでの学習を振り返り、問いに対するまとめのキーワードを出し合う。 【地震災害】 ・　プレートが集まっている地形	※　これまでの学習をまとめた教室掲示 ※　耐震工事済みの小学校の校舎の写真 ※　岩手県陸前高田市の防潮堤	

	・　耐震工事などの減災 【津波災害】 ・　プレートが集まっている地形 ・　防潮堤などの減災 【火山災害】 ・　山地が多い地形 ・　避難シェルターなどの減災 【風水害】 ・　季節風による気候 ・　首都圏外郭放水路などの防災 【雪害】 ・　季節風による日本海側の気候 ・　柵や消雪パイプなどの防災や減災 【全体をまとめて】 ・　どの災害も地形や気候といった日本の自然条件が関係している。 ・　国や都道府県のどの対策も災害の被害を防いだり、減らしたりするためのものだ。 ○　学習問題に対する自分の考えとそう考えた理由を学習計画表に記述し、学級全体で説明し合う。 ・　自然災害は、地形や気候といった国土の自然条件と関連して発生している。また、国や都道府県は様々な防災対策を行うことで、災害の被害を減らそうとしている。なぜ、そう考えたのかというと、地震や津波は日本列島が４枚のプレートの上にあるという地形が関係していたり、雪害は、冬に日本海側で季節風が吹くという気候が関係したりしているから。また、地震災害に対しても雪害に対しても国や県が必ず対策をして、被害を減らそうとしているから。	の写真 ※　御嶽山の避難シェルターの写真 ※　首都圏外郭放水路の写真 ※　富山県南砺市の雪崩を防ぐ柵の写真 ・　出し合ったキーワード全体に共通することは何か、自然条件と国や都道府県の対策それぞれについて問うことで、児童が概念的知識の獲得へ向かうことができるようにする。 ・　学習問題に対する自分の考えとそう考えた理由を書き終えた児童から考えの交流をするよう伝える。 ・　考えを交流する際は、赤鉛筆を持ち、消しゴムは持たないよう指導する。そうすることで、交流したことを赤鉛筆で加筆したり修正したりできるようにし、自己の考えの深まりを可視化する。	イ－② （発言や学習計画表の記述分析）
まとめ 10分	○　学級全体で学習問題に対する自分の考えを伝え合ったことを基に、学習問題に対する自分の考えを学習計画表に加筆したり修正したりする。		アー② （発言や学習計画表の記述分析）

⑶　板書計画



⑷　授業観察の視点

ア　学習計画表を基に、キーワードを出し合う活動は、学習問題に対する自分の考えをまとめる上で効果的であったか。

イ　本小単元の学習を進めるに当たって、学習計画表を活用してきたことは、本時に至るまでの学習を振り返り、学習問題に対する自分の考えをまとめる上で効果的であったか。

り出して、概念的な言葉でまとめられるような指導を行っていく。